

序

福生市は、多摩川が奥多摩の山地から武蔵野台地へ流れ出し形成した河岸段丘上に立地しているまちです。

その地形は、そこに住む人々の生活に様々の影響を与えて来ています。

江戸時代に幕府によって作られ、江戸市民の水源となった玉川上水も、この地形を利用し、福生市内を西から東へ貫いています。

それは、現在、市内に好ましい自然を作り出しています。

さらに古く、原始の人々は、段丘の発展過程に従って、生活の場を移しており、そこに散在する遺物はそれを如実に物語っている。現在の私たちの生活も自然風土も、この地形に多くの制約を受けています。

私たちの生活の基盤である地域の地形と地質、その形成時の環境をは握することは、将来の福生市を展望する上で、最も早くなされなければならない事であるといえましょう。

今回、調査員の方々の御尽力によって、これが報告書として作成されたことは、今後の本市の発展、また、学術研究、学校教育、社会教育の普及に大いに役立つものと確信します。

本書が活用され、文化財、自然風土の保護、保全への関心が深まれば幸いと存じます。

最後に、この調査にあたられた調査員の方々を始め、御協力をいただきました関係者の皆様に対し、厚く御礼申し上げます。

昭和54年 3 月

福生市教育委員会

教育長 町 田 倍 二